

農 村 第 495 号  
令和8年7月 23 日

各市町農業総合指導推進会議会長  
福井県農業協同組合中央会長  
福井県経済農業協同組合連合会代表理事理事長  
福井県農業共済組合長  
一般社団法人福井県農業会議会長  
ふくい農林水産支援センター理事長  
各農業協同組合長  
福井県土地改良事業団体連合会長  
各市町土地改良関係課長  
各土地改良区理事長  
福井県樹苗生産組合長  
福井県漁業協同組合連合会長  
沿海漁業協同組合長  
福井県内水面漁業協同組合連合会長  
内水面漁業協同組合長

様

福井県農林水産業渇水対策連絡会議  
会長 大石 秀昭

#### 高温・少雨に伴う農林水産物被害防止に向けた渇水対策等の徹底について（通知）

平素より、本県の農林水産業の推進と発展にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、県内では7月上旬以降、まとまった降雨がなく、福井地方気象台の気象情報によれば今後も高温・少雨が続く見込みであり、渇水による生育への影響が予見されるところであります。

つきましては、関係機関が一体となって、農林水産物の被害防止に向けた十分な対策がとれるよう、下記事項にご留意いただき、関係者や生産者等への周知徹底を図るとともに、適切な指導および対応をお願いします。

#### 記

##### 1. 農業用水の適正管理と節水の徹底

- (1) 農業用水の確保のため、関係機関との調整を図り、計画的な配水が行われるよう措置すること。
- (2) 水稻においては、掛け流しを厳に慎み、間断かんがい等による節水型の水管理を徹底すること。
- (3) 土地改良区等の水利管理者の指示、または番水（輪番通水）等のルールが実施される場合は、これを厳守すること。
- (4) 水路の末端や給水栓の確実な閉止を確認し、無効放流を防止すること。

##### 2. 農畜産物の技術対策

別紙による。

### 3. 林業用種苗の管理対策

- (1) コンテナ苗の根鉢は乾燥しやすいため、夏場は早朝と夕方の2回かん水を行う。(屋外の場合は雨の状況や根鉢の乾燥具合を考慮)
- (2) スプリンクラー等は、かん水が各コンテナ容器に十分行き渡らない場合があるので、根鉢の状態を目視で確認し、必要に応じてコンテナの配置替えや人力でのかん水により補完する。
- (3) 枝葉が密に重なり、根鉢に水が届いていない場合は、コンテナ容器の間隔を空けて密度を下げるなど、かん水ムラが生じないようにする。
- (4) かん水の回数を増やしても乾燥が激しい場合は、寒冷紗等により遮光する。
- (5) ビニールハウスの場合は、ハウス内の過熱や過湿によるカビの発生に注意する。

### 4. 養殖現場における管理対策

- (1) 養殖場における水温や養殖魚の摂餌状況、遊泳状況等を十分観察し、高水温によるストレスやへい死の兆候が認められる場合は、給餌量の調整など適切な管理を行うこと。
- (2) 高水温時は疾病や寄生虫被害が発生しやすくなることから、異常が認められた場合は速やかに県へ連絡すること。

### 5. 補助事業の活用

- (1) 必要に応じて、渇水対策等に資する県の補助制度の活用を検討すること。

#### ・干害対策等特別事業

市町や土地改良区等が実施するポンプ設置や番水等の渇水対策に必要な経費を支援

<参考 HP>

[干害対策等特別事業について | 福井県ホームページ](https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/nouson/kanngaitaisaku.html)

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/nouson/kanngaitaisaku.html>

#### ・がんばれ特産産地! 小さな農業応援事業「まるっと」猛暑対策支援

近年の猛暑に対応した安定生産に必要な機械・設備の導入に係る経費を支援

<参考 HP>

[福井県の園芸振興施策について | 福井県ホームページ](https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021037/engeisinkou/sesaku.html)

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021037/engeisinkou/sesaku.html>

- (2) 活用にあたっては、補助要件や事業採択時期を十分確認し、関係機関と事前の調整のうえ適切に進めること。

### 6. 状況報告および連絡体制の確立

- (1) 渇水被害が生じた場合は、適宜、状況把握を行い必要な対策を実施すること。
- (2) 迅速かつ正確な状況報告ができるよう、連絡体制を確立しておくこと。

## 高温・少雨に伴う農畜産物の技術対策について

## 〈農作業中の熱中症対策〉

農業従事者の中には熱中症の具体的な症状が分からず、知らずに熱中症にかかっている方も多い。特に高齢の方は脱水しやすいため、こまめな水分と塩分の補給や休憩をとるように周囲の者が協力して声かけを行う等、熱中症を予防する。

## (1) 暑さを避ける

- ・ 高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業

## (2) こまめな休憩と水分補給

- ・ 作業前や喉の渇きを感じる前に、こまめに休憩し水分・塩分を補給

## (3) 単独作業は避ける

- ・ 複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う

## (4) 熱中症対策アイテムの活用

- ・ 帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用

## 〈参考 HP〉

熱中症対策：農林水産省

[https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s\\_kikaika/anzen/nechu.html](https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/nechu.html)

## 〈技術対策〉

## ◇水田圃場に給水する際の留意点

- ・ 地域や集落で用水系統や団地毎に入水時間を申し合わせるなど、地域全体で計画的に用水供給を行う。

## ○水 稲

## (1) 水管理および適期収穫

- ・ 登熟の向上および白未熟粒の発生回避のため、収穫直前までこまめな間断通水を実施する。
- ・ 高温多照年は成熟期が早まるため、積算気温を目安に籾水分を計測して適期に収穫し、刈遅れによる胴割粒の発生を防ぐ。

## (2) 斑点米カメムシの適期防除

- ・ 斑点米カメムシ類は平年より多く、高温で活動が活性化している。斑点米の発生防止のため、粉剤・液剤では、穂揃期～乳熟期（出穂3～5日後頃）と糊熟初期（出穂10～14日後頃）の2回防除する。
- ・ 農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、追加防除を行う。

## ○大 豆

- ・ 土壌の乾燥で、着花や着莢、子実肥大が悪くなるため、降雨がない場合は、5～7日おきに畝間かん水する。
- ・ かん水は短時間で多くの水を入れるようにし、畝間に水が行き渡ったら排水口および暗渠の栓を開け、速やかに排出する。

## ○そ ば

- ・ 土壌の乾燥で出芽率が低下するため、降雨がなければ、小畝立て播種機は使用しない。

## ○野 菜

### 1 高温対策

#### (1) 施設野菜

- ・ ハウスの妻面、側面、天窓をできる限り開放し、ハウス内の通風を確保して温度低下に努める（特にハウスの妻面および肩部より上の通風は昇温抑制効果が高い）。
- ・ 日中は遮光カーテン等で遮光し、ハウス内および植物体の温度低下を図る。また、ハウス外側に遮光資材を展開する外部遮光や、ハウス屋根部への遮熱剤塗布も効果的である。
- ・ 地温上昇防止対策として、敷わらや地温抑制マルチを使用する。また、畝間（通路）にも敷わらや防草シート等を被覆し、ハウス全体の地温低下を図る。
- ・ ハウス内が乾燥する場合は通路にもかん水する（かん水による気化熱で温度低下を図る）。
- ・ ハウスの昇温抑制対策として、細霧冷房、ハウス屋根部への散水等も効果が確認されている。

#### (2) 果菜類

- ・ トマトは、ホルモン処理を比較的気温の低い時間帯に行い、3段花房以降はジベレリンを加用する。
- ・ 高温によるカルシウム欠乏（尻腐れ等）を防止するため、開花時にカルシウム剤を比較的気温の低い時間帯に葉面散布する。

#### (3) 露地野菜

- ・ 夏期高温時に播種、定植する場合、定植直後からかん水チューブ、スプリンクラー等で散水し、確実に発芽・活着させる。やむを得ず畝間かん水する場合は、除草剤の効果が低下するので、雑草対策を徹底する。
- ・ 基肥にカルシウムやホウ素入りの微量要素の施用に加え、生育状況に応じてカルシウム剤の葉面散布を行い、急な生理障害（チップバーン等）を予防する。また、窒素肥料の多用を避ける。
- ・ ネギは、高温時でのかん水が軟腐病や白絹病を助長させる恐れがあるため控える。止むを得ずかん水する場合は、根の呼吸量が低下する日没後など、地温が低下した後に行う。

#### (4) 共通

- ・かん水は、地温が十分低下した早朝や夜間に行う（日中の高温時のかん水は避ける）。
- ・果菜類については、適期収穫を行い、収穫遅れによる草勢低下を防ぐ。また、収穫は早朝に行い、品質低下を防ぐ。

## 2 病虫害防除

- (1) 高温時は薬害が発生しやすく、薬剤散布は気温が低い朝夕の時間帯に実施する。
- (2) 高温乾燥時には、スリップス類、ハダニ類、コナジラミ類等が多発しやすいので、定期的に防除を行う。
- (3) 高温・乾燥下では、うどんこ病などの病害の発生が懸念されるため、発生前の予防防除を徹底する。
- (4) トマト等は高地温により青枯病の多発が懸念されるので、敷きわら等で地温低下を図る。

## ○花 き

### 1 水管理、土壌乾燥防止

日中、葉がしおれ、朝夕でもしおれが回復しないようであれば、土壌がかなり乾いており、生育、開花および品質に悪影響を及ぼすので、次の対策を講じる。

- (1) 露地花き
  - ・かん水は、地温が十分低下した夜間から日の出までの時間帯に行う（地温が高い時間帯の灌水は、水温上昇による根の傷みを招くため避ける）。
- (2) 施設花き
  - ・土壌水分の蒸発抑制と地温上昇防止のため、敷きわら等でマルチを厚めに行う。
  - ・換気を徹底する。
  - ・高温・乾燥による品質低下を回避するため、日中は遮光カーテン等で遮光する。
- (3) 共通
  - ・収穫は早朝の涼しい時間帯に行い、収穫物の品質低下（しおれ等）を防ぐ。

## 2 高温対策

高温期に播種、定植、栽培管理を行うものは、次のことに特に留意する。

- (1) 播種後の管理は雨よけ下で行い、遮光による温度低下を図る。播種箱は風通しの良い場所で管理する。
- (2) 地温および気温の低下を図るため、定植日の5日程度前から定植後5日程度は遮光する。また、あらかじめかん水し、定植時の土壌水分を十分に保つとともに、定植後のかん水を必ず行う。
- (3) ハウスの妻面、側面、天窓をできる限り開放し、換気を徹底して施設内の昇温抑制に努める。

### 3 病虫害防除

高温・乾燥下でダニ類、アブラムシ類、スリップス類等の虫害の発生が懸念されるため、予防防除を徹底する。

高温時は薬害が発生しやすいので、薬剤散布は気温が低く、植物体のしおれがない朝夕の時間帯に実施する。

## ○果 樹

### 1 土壤乾燥防止

草との土壤水分の競合を避けるため、果樹園の下草をていねいに刈り取り、刈り取った草は樹冠下に敷き土壤表面からの蒸散を防ぐ。

### 2 かん水

土壤が乾燥する前の早めのかん水を徹底する。砂地など乾燥しやすい土壤の園地では、土壤の乾燥状況に合わせてかん水間隔を短くする。

幼木は、根が少なく、乾燥に特に弱いので株元にたっぷりかん水する。

### 3 ハウス管理

妻面、側面、天窓をできる限り開放し、ハウス内の通風を確保し、温度低下に努める。

### 4 病虫害防除

ナシ、ブドウなどでは乾燥するとハダニ類の発生が多くなるので、発生状況を確認し防除する。

### 5 収穫

収穫期を迎えた品目では、果実温の低い早朝での収穫、選果等を徹底する。

## ○畜 産

### 1 畜舎管理

(1) 舎内の換気に気をつけ、送風機や換気扇の活用を図るとともに、状況に応じ、屋根や畜舎周辺への散水（打ち水）、屋根への石灰塗布、軒先等におけるスタレや寒冷紗の設置により舎内温度を下げる。

(2) 残飼の腐敗に注意し、除ふん、畜舎の清掃など環境の改善に努める。

### 2 乳牛、肉用牛

(1) 給飼はできる限り朝夕の涼しい時間帯に行い、嗜好性の高い良質の飼料給与に努める。

(2) こまめに給水器の点検を行い、浄水を十分に与える。状況に応じサプリメントなどを利用してバランスのとれたミネラルの補給やビタミン類の添加を行う。

### 3 豚、鶏

- (1) 密飼いを避け、送風や噴霧により、畜舎内気温の低下や体温上昇の防止を図る。
- (2) 油脂などの栄養価の高い飼料の給与やビタミン類の補給により、体力低下の防止に努める。

### 4 飼料作物

- (1) 牧草類については、再生の影響を考え、刈り取りを延期する等、株の枯死防止に努める。